神成

発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
（〒155-0031）　2-22-10
電話　代表03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月１回１日発行
購読料　１部80円
（会員の購読料は会費に含む）

2025
No.631
３月号

―善と悪―

人の眼に善しとし映る事とても
神の御旨に適はぬ事あり
如何ならむ善き行ひも神知らぬ
人は大方利己のためなる
人に良く思はれたしとおもう人
大方神を忘れがちなる

教祖・明主様
一九三八年（昭和十三年）頃　玉川・宝山荘にて

◎教団方針
信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

神言霊

神は正なり

今更神は正なりなどというのは可笑しな話であるが、一般人は勿論宗教に携わる教師も一般信者も兎角忘れ勝ちであるから茲にかくのである。というのは本教などは特に正義と善行に力を入れているに拘らず、稀には本道から逸脱し、あらぬ方面へ彷うものもない事はないからである。その様な場合必ず神からお気付を頂くが、それを無視する場合神の大鉄槌を蒙るのである。

先ず普通信仰者の最初の中は至極真面目に御神徳や奇蹟に感激し、熱心な信仰を続けつつあるのであるが、正しい信仰である以上、おかげは著しく自然多数の人から尊敬される事になり、生活境遇も大いに恵まれるので本来なれば愈々神恩に感謝し、一層身を慎しみ報恩に尽くすべきに拘らず、凡人の悲しさ、不知不識恩に狂れ、慢心が生じ、心に隙が出来るのである。処が邪神はこの隙を常に狙いつめているので、得たり賢しとその隙に入り込み、その人を占領し肉体を自由自在に操るようになるので、実に危ない哉というべきである。而も覇気あり役に立つ人ほど邪神は狙うのである。然し本当に正しい信仰者でありとしたら邪神は手が出ないので諦めて了うから安全であるが、中には引っ掛かる人もあるのでこの点中々むずかしいのである。

◎方針のみちしるべ
（一）みつめなおそう明主様の心
（二）つらぬきとおそう明主様の心
（三）教団綱領を尊び実践する
（四）信仰継承は家族と家庭円満から

然し、之も標準に照らしてみればよく判る。つまり自己愛の有無である。神様の為、人類の為のみを第一義とし、自己の利害など考えず驀らに進めばいいので、斯ういう人こそ邪神はどうする事も出来ないのである。処が少しうまくゆくと自惚が出る。自分が偉いと思う。この時が危ないのである。終に野心を有つようになる。それが為自己を偉く見せようとし、勢力を得ようとする。実に恐ろしい事である。一度斯うなると、邪神は益々魂深く入り込み終に占有して了う。而も大きい邪神になると相当の霊力を発揮する。勿論一時的霊力ではあるが、病気を治したり奇蹟なども表すから、慢心はいよいよ増長し、終には何々神の身魂とさえ思わせられ、生神様となって了うのである。茲で注意すべきは、そういう宗教の開祖とか生神様とかいうものの態度を厳正なる眼を以てみればよく判る。その著しい点は、愛の薄い事と、信仰は小乗的戒律的で厳しいと共に、自分のいう事を聞かないと罰が当たるとか、自分のグループ又は信仰から抜ければ滅びるとか、生命がないとかいって脅かし、離反を食止めようとする所謂脅迫信仰である。斯ういう点が些かでもあれば、それは邪神と断定して間違いないのである。

私が常にいう通り、正しい信仰とは大乗的で、自由主義的であるから、信仰の持続も離脱も自由であると共に、天国的で明朗快活である。処が反対に秋霜烈日の如き酷しい戒律信仰は邪教であり、信仰地獄である、特に注意すべきは、之は人に言ってはいけないなどというような、聊かでも秘密があれば邪神と思っていい。正しい信仰は何等秘密がなく明朗そのものである。

教団綱領の学び

正神を敬い　祖先を尊び　恵みの光に浴くして　感謝報恩の生活を送ります（全五回）

【第一回】正神を敬い

一、『御神体』御奉斎は信仰の条件

【神言霊】

『御神体をお祀りすると、一家の霊界が明るくなるので、お祀りしなければまだ暗いのです。暗いのは地獄だから駄目で、まだ救われませんよ。それに、御神体を拝むと、拝むたびに御光を受けるから浄まって行くのですね。だからたいへんな違いですよ。

御神体をお祀りせねば本当に信仰に入ったとは言えませんね。つまり、御神体をお祀りすれば、信仰の門の中へ入るので、お祀りしない中は、門の外にいるわけです。かと言って、もちろん門に入っただけでは駄目でね。やっぱり玄関からお座敷まで行かなくてはいけませんからね。それでなくては天国にはなりませんよ。また、教修を受けただけじゃ、駄目だっていうのもそれですね。

神様の光は蜘蛛の巣がかかったりしていると出ないんです。

これは滅多にはないがどうかするとたまにはあることだから、ここに注意するのである。

いつかも言った通り一家中全部が信仰へ入るとか、そうでなければ理解ができてから、快くお祀りすることが本当である。そうでなく一人でも反対者があるとしたらしばらく時を待つべきであるが、なんとかして早く入信させたい焦りから、お祀りするのであろうし、またそうすれば早く分かると思うからであるが、これは人間の考え方で神様の方は別である。

つまりその人それぞれの罪の軽重、因縁、使命等によって、入信の時期も遅速があるから、すべては神様にお任せしていればいいのである。』

二、家庭における参拝のあり方

【朝拝、夕拝】

信者が、朝夕、御神前でお参りする場合、神様が御神前にお出ましになられるのですから、正しい想念を持つことが大切であり、御座なりなお祈りは許されるものではありません。本当に神様が目の前におられ、自分の祈りや、願いごとを直接聞いて下さるという想念を、強く持たなければなりません。

尚、礼拝のあり方については、左記の通りです。

朝拝　天津祝詞・神歌（祈りの玉ぐさ）
夕拝　善言讃詞・神歌（祈りの玉ぐさ）
※天津祝詞、善言讃詞の解説は冊子「『祝詞』その奥をひもとく」をご参照下さい。

【家庭祭】

家庭祭は日を定めて行い、御参拝にあたっては、家族揃って、主人が先達することが原則であります。

その時、家庭祭の御玉串料をお供えし、その後、教会、教導所、光導所に、奉告参拝をする。家庭祭にあたっては、御神体、御神床の清掃、準備等について、日々の御奉仕にもまして、特に念入りに御奉仕することが肝心です。仰光観音御影を御奉斎している方もこれに準じて下さい。

清掃をさせて頂きます場合、塵払い、ふきん、また用具などは、清潔なものを備えつけて、一般用と別にして間違いのないように、注意して下さい。

神饌物は、真心のこもった物を捧げることが必要であります。

◎御奉斎につきましては、布教拠点までお問い合わせ下さい。

仰光観音御影様　御額寸法：縦30×横20㎝

三、神羅万象一切は人間のために存在している

【神言霊】

『見よ、春の花、秋の紅葉、百鳥の囀り、虫の啼く声、明媚なる山水、月の夜の風情や温泉等々は、何が故に存在するのであろうかということを考えなくてはならない。　言うまでもなく、きれいな花が咲き、いい景色があるっていうのは、造物主がこれを無駄に作ったのではない、人間を楽しませるために作られたんです。おいしいものだってそうです。人間を楽しませるために作られたんです。

四、衣・食・住

【神言霊】

『粗衣粗食、茅屋に住み、最低生活をしながら、世のため人のためを思って、善事を行っている者も昔から少なくないのである。それほどにしなくとも、差し支えない境遇にありながら、好んでそのような生活をするのはどうも面白くないと思うが、中には修養の手段として特に禁欲生活をする宗教家も、今までたくさんあったが、こういう人は自分もそれが立派な方法であると思い、世人もそれを見て偉い人と思うのであるが、実をいうとこの考え方は本当ではないのである。

何となれば肝腎な「美」というものを無視しているからで、つまり「真・善・醜」であるわけである。

この意味において人間の衣食住は、分相応を越えない限り、できるだけ美しくすべきで、これが恩恵を与えたもう天の意志に叶うのである。』

仏様に花を上げるっていうのもそれなんです。花は霊界に非常にいい影響を与えるんですよ。私の所ではどの場所でも大抵花を置いてあり、花のない部屋はないくらいです。

日本中の人間が立派な心をもち、農作物に対しても感謝の気持ちで有難く頂戴し、物を粗末にせず、ずるい心を起こさずに正しい行いをすればいいんです。

ところが今の人間はそれとはまるっきり反対の間違った料簡をもってますからね。

今言ったことは絶対で、これは真理ですよ。いかなる災難でも天候の不順でもみんな人間が造るんですよ。』

令和七年 節分祭・立春祭・特別大祈願執り行われる

令和七年二月二日、「節分祭」が本部をはじめ各布教拠点にて午前十時より一斉に執り行われた。今年は暦の関係で通年より一日早くこの日を迎えた。一年の大祓いの祭典でもある事から、天津祝詞に続き神言が奏上され、善言賛詞と続き、いつもよりも厳かな神事となった。

会長の挨拶では、再び昼の時代を迎える中で世の中の乱れを正す浄化が旺盛になってくる、強くなってくることから、節分祭神歌の『大神の　御護りなくば如何にして　最後の峠越えらるべしやは』をお取次ぎされ、「大光明・明主様とお繋がりいただいている光の綱をしっかりと握りしめ離れないように、離されないように進んでまいりましょう。」と締めくくった。

一年の大祓いの節分祭が厳かに執り行われた

翌日、二月三日、日本列島を今季一番の寒気が流れ込み、寒波が押し寄せる中、暦の春を迎え、「立春祭・特別大祈願、二月祈願祭」の大御祭典が本部中継にて各布教拠点と心をあわせて午前十時より執り行われた。

立つ春の神光降り注ぐ佳日の祭典に、本部においては光守様のお出ましを賜る中、本部御神前には各布教拠点の光導実践活動目標と特別大祈願書奉納数御奉告書が捧げられ、各布教拠点では特別大祈願書が捧られ、各々の今年一年の願い事の誓願成就の祭典が厳粛に執り行われた。

また、「おことば」を会長が代読し、光守様の力強いメッセージが伝えられ、参拝者の感動を誘った。

立春の神光降り注ぐ大祭典を迎えた本部御神前

立春祭　おことば

『軟らかい春風が吹くが如く人に優しく　謙虚な姿勢で　自分自身のやっていることが良いことなのか？悪いことなのか？常に問い掛け『常識』を持って進んでいきなさい』と明主さまは常々、仰っております。

立春がひとつの節目となって、一歩ずつ昼の世界、良い世界になっていく中で、その大切な節目の直前に教団でざわめき立つことがあったようです。

一部の信徒さんには深い不安と心配をお掛けしたことが只々申し訳なく、やるせない気持ちで一杯です。

明主さまから与えて頂いた大試練

立春祭の今日から、『一からやり直し』の気構えで、と新たに決意したところです。

辛い思いをさせてしまって本当にごめんなさい、必ず会いに行きます。

山嵜会長をはじめ教師の方々、信徒代表の方々、よろしくお願いします。

立春祭あいさつ（要旨）

立春祭・特別大祈願、二月祈願祭おめでとうございます。

昨日は、大祓いの節分の御祭典を終えて、立つ春の神光降り注ぐ大御祭典を迎えさせて頂きました。

本日、東京本部御神前には各布教拠点の光導実践活動目標と特別大祈願書奉納数御奉告書をお捧げし、各布教拠点におきましては特別大祈願書をお捧げさせていただきました。それぞれに今年一年の願い事の成就をお祈りさせて頂いたことと存じます。その後に賜る『光鈴』を身近におかれ心地よい鈴の音のように響き亘る言葉の持ち主とならせていただけるように心がけてまいりましょう。

只今、光守様のおことばを代読させていただきました。

参拝者代表による玉串奉奠

『一からやり直し』の気構えで と賜りました。

今一度教団の原点に立ち返ること。その原点は大先生の御遺訓であり、座右の銘ではないかと考えます。

「吾　あるところ　必ず神の御守護あり」

「吾　行ずるところ　必ず奇蹟現る」

これを基本行として見つめなおしてまいりましょう。

さて、今年の教団方針は昨年から続くものでありますが、私達、信徒（まめひと）は、明主様の愛の神光によって魂を目覚めさせていただき、正しき道を歩むこと。その道を歩むには明主様の教えも必要となります。

今から遡ること十六年前の平成二十一年に光守様の御心により教団綱領を中心とした積み重ねの学びとして信徒研修会が始まり、多くのテキストを賜りつつ、コロナ禍の影響もあり昨年一区切りを終えました。

このたび、毎月の神成紙面を活用して、その学び直しをさせて頂く事となりました。研修会は三月より布教拠点の祭典に合わせて行ってまいります。学びにより「力」をつける事も必要です。一人でも多くの方に学びの機会を持っていただきたいと願っております。

二月の神成には『力』という神言霊を賜りました。

明主様は宇宙における森羅万象の活動の源泉は神の力であると仰っておられます。

力という字を分解してみると、縦棒と緯棒を十字に結び、横棒の末端からやや斜めの棒を引きその尾が跳ね上がる形になります。これは経緯結ぶと同時に活動が起こることを意味しています。

さらに、明主様は、『力というものは霊体一致、霊体が結んで力を発生するのです。』『力というのは、一番は病気を治すことです。ここ（掌）から出る、目に見えない、一つの気、火素と言いますが、この力というのが、つまり霊体結んだ力なのです。』と仰っておられます。

その力は『おひかり』をかけることで私たちにも与えられており、浄霊による奇蹟の現れがその証であり、明主様が天界に上がられ、より大きい、強い、神光が無限に届いているということを私たちは信じることが大切ではないかと考えます。

また、私たちの持つみえない力の中に言葉の力というのもあるのではないかと思います。

良き想念、良き言霊を発することができるように気を付けてまいりましょう。

輝霊光納斎殿

輝霊光納斎殿のご案内

輝霊光納斎殿は、本部礼拝堂の御神前に向かい右側にあります。神成郷終い納めに伴い、輝霊光吉宝殿に納斎されておりました御遺骨、御遺髪、御髪を御移動させて頂き、令和五年・二〇二三年九月八日、光守様ご臨席の下、祀り込みが行われ、宗主家（大沼家）および帰幽された信徒の方々の御遺骨、御遺髪、また御髪の納斎が始められました。

信徒の皆様から輝霊光納斎殿はどのようになっているのかという声があり、その様子を掲載させて頂きました。

納斎殿は主に三分割されており中心に観音像をお祀りさせて頂き、最上部は宗主家（大沼家）の納斎壇となっております。また、納斎壇の扉には明主様の御描きになられた様々な観音様の御姿があしらわれております。納斎壇の名称、納斎料につきましては左記の納斎案内図をご参照下さい。納斎のお申込み、ご予約、ご相談、ご質問につきましては各布教拠点にて承っておりますのでお申し出ください。

春彼岸の祖霊様の御供養に際し大光明・明主様の神光間近に降り注ぐ輝霊光納斎殿への納斎をお考えになられてみてはいかがでしょうか。

輝霊光納斎殿　案内図

＊納斎区画表

上の壇 100 万円	宗主家	上の壇 100 万円
六の壇 30 万円	七の壇 40 万円	六の壇 30 万円
五の壇 20 万円		五の壇 20 万円
縁（ゆかり）の壇 5 万円		一の壇 10 万円
御髪 1 万円		御遺髪 1 万円

（上段：区画名　下段：納斎料）

＊御遺骨納斎区画（分骨納斎もできます。）
上の壇：七の壇：六の壇：五の壇：一の壇：縁（ゆかり）の壇

＊お花料（管理料）：１年間 3,000 円
数年分まとめて納める事もできます。（合祀されるまでの 30 年分で 9 万円となります。）
お花料は願い主に対して１口となります。

＊納斎から 30 年で合祀させていただきます。

教団　人事異動のお知らせ

令和七年一月二十三日付

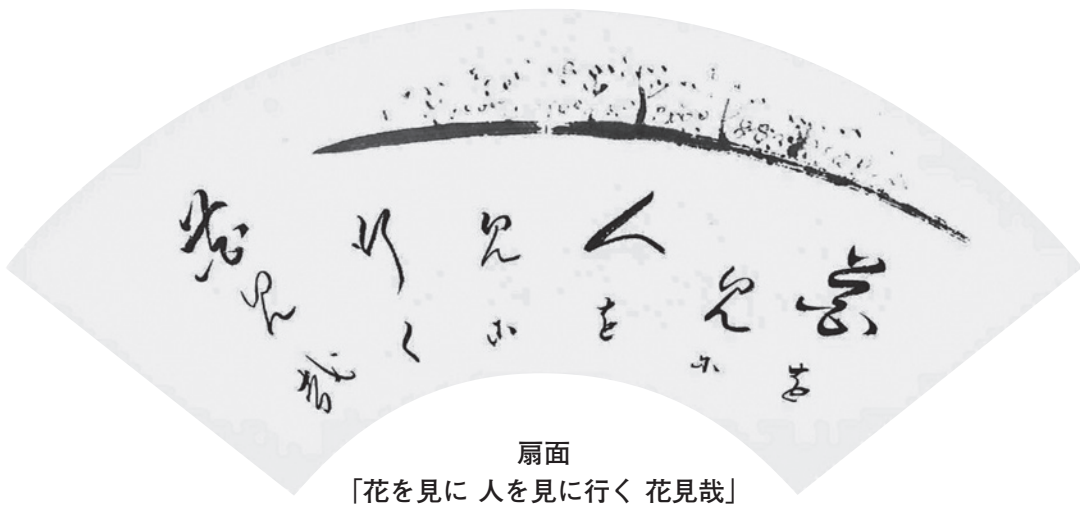
佐藤直登　責任役員　就任

戸塚大介　長岡教会責任者（教会長）　就任

令和七年一月二十六日付

窪田秀男　退職

以上となります



扇面
「花を見に 人を見に行く 花見哉」

VEGETABLE OIL INK　植物油インキを使用しています。